（第二種）（明治二十一年一月廿日第三種郵便物認可）　昭和十七年五月二十九日（金曜日）　臺灣日日新報　第一萬五千六百六十八號　（一）

臺灣新報 夕刊

五月二十八日

浙東の敵最大の牙城 金華城完全攻略

天嶮に據る頑敵殲滅

【既報二十八日發同盟至急報】中支軍發表（五月二十八日午前十時）

軍は金華、蘭谿周邊の天險と既設陣地に據れる敵を包囲殲滅し五月二十八日午前七時金華城を完全に攻略せり

【金華城二十八日發同盟至急報】わが金華攻撃部隊は二十七日夕刻來金華東北高地に據る敵陣を突破城内に遁走せんとする敗敵に追尾して東、北方面より怒濤の如く金華城に殺到、廿八日早曉城壁附近において壯絶な激戦を展開して午前六時遂に金華城北門に突入次で新編第二十一、同第三十師等の殘敵と城壁上に激闘を交へつつ逐次戦果を擴大、同七時全市掃蕩を完了した、浙東の敵最大の牙城金華はここに激戦三昼夜にしてわが掌中に歸し感激の日章旗は城内を埋めてゐる

金華蘭谿間の敗敵を剿滅中

【金華城二十八日發同盟】金華、蘭谿を繋ぐ線とわが軍の進撃前進中間地帯の敗敵を包囲剿滅しつつ殲滅戦大詰である

江南遊撃隊本據覆滅

一連の航空基地も喪失

【七日發二十八日發同盟】蘇州の東南方に當り一萬數千の敵を擁し江南遊撃隊の本據を誇る常熟城の攻略に向ひ我が一部隊は二十四日午前十時頃同城の東北方約十粁の地點に到達、城内の敵は之を迎へ撃ち熾烈なる市街戦を展開したが、我が軍は之を物ともせず突入、遂に同城を完全に占領した、常熟城は蘇州の東南方約四十粁、上海の西北方約百粁に當り、江南遊撃隊の本據を誇る要衝の地である

【七日發二十八日發同盟】常熟攻略に當つた我が一部隊は二十四日午後常熟の東北約十粁の地點に到達、同地に蟠踞する敵の主力は常熟城の攻略に備へ城外の要地に堅固な陣地を構築してゐるとの情報に接したので、我が軍は二十五日午後常熟城の東北約十粁の地點に到達、同地に蟠踞する敵の主力に對し攻撃を開始した、敵は我が軍の攻撃に對し頑強な抵抗を試みたが、我が軍は之を物ともせず突入、遂に同城を完全に占領した、常熟城は蘇州の東南方約四十粁、上海の西北方約百粁に當り、江南遊撃隊の本據を誇る要衝の地である

【七日發二十八日發同盟】常熟攻略に當つた我が一部隊は二十四日午後常熟の東北約十粁の地點に到達、同地に蟠踞する敵の主力に對し攻撃を開始した、敵は我が軍の攻撃に對し頑強な抵抗を試みたが、我が軍は之を物ともせず突入、遂に同城を完全に占領した、常熟城は蘇州の東南方約四十粁、上海の西北方約百粁に當り、江南遊撃隊の本據を誇る要衝の地である

【既報二十八日發同盟】蘇州の東南方に當り一萬數千の敵を擁し江南遊撃隊の本據を誇る常熟城の攻略に向ひ我が一部隊は二十四日午後常熟の東北約十粁の地點に到達、同地に蟠踞する敵の主力に對し攻撃を開始した、敵は我が軍の攻撃に對し頑強な抵抗を試みたが、我が軍は之を物ともせず突入、遂に同城を完全に占領した、常熟城は蘇州の東南方約四十粁、上海の西北方約百粁に當り、江南遊撃隊の本據を誇る要衝の地である

壯絶な夜襲

【南京二十七日發同盟】金華、蘭谿北方地帯より敵の配拒を絶ち、なほも敵殲滅中の我が部隊は二十六日夜半より敵第一線に殺到し敵陣地を突破、更に敵第二線陣地に殺到し敵陣地を突破、更に敵第二線陣地に殺到し敵陣地を突破、更に敵第二線陣地

珊瑚海海戰談

サラトガの艦橋飛散
壯烈・敵巡洋艦に體當り

【東京發同盟】○○基地二十七日發同盟電――我が無敵海軍航空部隊が五月七、八兩日珊瑚海に於ける敵艦隊撃滅作戰に參加し赫々たる戰果を擧げたことは既に發表せられた通りであるが、この作戰に參加した○○航空隊の一部隊は二隻の一、甲巡一、乙巡一、驅逐艦二、計六隻、敵巡一を中破して未曾有の大戰果を擧げ帰投したが、この日敵に突入した模様の生々しい戰況を耳にしたので○○基地に急行した時は既に歸投後であつたが、幸ひ突入した○○飛行長○○○○少佐と○○○○飛曹長に會ひ當時の模様を聞くことが出來た

○○飛行長　○○○○少佐（海兵○○期）

○○飛曹長　○○○○（操縱員）

○○○○少佐は○○○○

臺灣日日新報 第一万五千百六十八號 (一)
昭和十七年五月二十九日 (金曜日) (第二種郵便物認可) (第二)

臺灣日日新報

本日夕刊共六頁

高松宮殿下新京御着

皇帝陛下と固き御握手

【新京發同盟】御新京の大通、八紘一宇の聖旨の顯現として共に仰ぐ滿洲國の首都十周年の慶祝のため御參列遊ばされた高松宮殿下には廿八日午前十時新京驛御着、滿洲國側からは張景惠國務總理、星野國務院總務廳長官、日本側からは植田關東軍司令官、大使館一等書記官しの特別列車にて大歡迎裡に一路新京に向はせられた、時の御入京に際し滿洲國側からは張國務總理、星野總務廳長官、日本側からは植田關東軍司令官、大使館一等書記官らが御出迎へ、ホームにはせられ、御下車遊ばされた殿下には午前十時二十分新京驛御到着ホームに滿洲國側から張國務總理、星野總務廳長官、日本側からは植田關東軍司令官、大使館一等書記官らが御出迎へ、ホームには滿洲國側から儀仗隊が捧銃の敬禮を捧げ樂隊は奏樂を以て殿下を迎へ奉つた、殿下には御下車遊ばされるや滿洲國側から張國務總理、日本側からは植田關東軍司令官、大使館一等書記官らの御出迎へに對し御會釋遊ばされ、ホームに整列せる滿洲國側儀仗隊の捧銃の敬禮を受けられ、張國務總理、星野總務廳長官、植田關東軍司令官、大使館一等書記官らの御先導にて御休所に入らせられ、暫時御休憩遊ばされた、殿下には御休憩後滿洲國側から差廻された御乘用車に御召替へ、張國務總理、星野總務廳長官、植田關東軍司令官、大使館一等書記官らの御供奉にて滿洲國皇帝陛下に謁見の爲め宮城に向はせられた、宮城に向はせられた殿下には宮城正門に於て滿洲國側から溥傑侍衛武官長の出迎へを受けられ、溥傑侍衛武官長の御先導にて宮城内に入らせられ、御車寄に於て滿洲國側から張國務總理、星野總務廳長官、植田關東軍司令官、大使館一等書記官らの御出迎へを受けられ、溥傑侍衛武官長の御先導にて御車寄より

社説

邦人の南方活動と蔬菜問題
蔬菜技術を南進せしめよ

一

南方に於ける日本民族大発展に関しては既に幾多識者の論説あり、又政府当局の方針も明瞭であるが、これが具体的実現に関しては、なほ幾多の問題が横たはつてゐる。

二

人間の生活に於て其の食糧と衣服とは最も基本的の必要であることは勿論であるが、食糧の問題は衣服の問題に比べて遥かに重大であり、且つ緊急を要する問題である。即ち衣服は多少の不自由は忍び得るが、食糧は一日たりとも欠くことは出来ないからである。

南方諸地域の開発に当つては、現地自給の方針を確立することが最も肝要であるが、これが為には、先づ内地より多数の移住者を送り出さなければならない。而して移住者の食糧は、現地自給の確立するまでは、内地より送り出さなければならないのである。

三

さて、茲に問題となるのは、南方諸地域の開発に当つて、内地より送り出す食糧の種類である。即ち、南方諸地域の開発に当つては、内地人の口に適する食糧を送り出すべきか、又は現地人の口に適する食糧を送り出すべきかといふことである。

南方諸地域の開発に当つては、内地人の口に適する食糧を送り出すことが原則であるが、これが為には、内地人の口に適する食糧を生産することが必要である。

南方諸地域の開発に当つては、内地人の口に適する食糧を生産することが必要であるが、これが為には、内地人の口に適する食糧を生産する為の技術者を送り出すことが必要である。

南方諸地域の開発に当つては、内地人の口に適する食糧を生産する為の技術者を送り出すこと

大股跳び坂口兵團

〇〇少佐手記（上）

【ラングーン特電卅一日午後發】ビルマ戰線に活躍した坂口兵團の〇〇部隊〇〇少佐はその手記で

〝蛸林〟を突破急襲

敵作戰の裏を掻きダバオ上陸

坂口兵團の作戰の端緒は昨年一月廿日の開戰第一日に展開された、まづ比島ミンダナオのダバオを抜けばホロ島を攻略いでボルネオのタラカン油田に進出し、有名なタラカンの油田を占領した、引續きバリックパパンを攻略それから蘭印主力を以てバンジエルマシンを陷の一擊を以てラウト島の油田のニタベルを攻略し三月八日には遂に主力がジャバ島に上陸作戰を開始したのである、以下その經過を述べよう、

敵の印度洋方面唯一の

機關銃に背後から

ブキテマ高地と、敵はバンドンに向ひ最後の全面抵抗をなそうと、この間約一週間の猶豫、最初にオランダ軍と戰いた部隊である、元來と一番初に滿洲に進出した部隊で戰場經驗も豊富で敵情を十分研究し、敵の戰法、戰術にオランダ軍と戰いた部隊がなら急に、かういふことを考へられて部隊がバラバラに組織しなほすやうにマングローブの林、ジャングル道路を戰闘せよといふことを示された、我々はこのマングローブの林の中にたよりに上陸から攻めようとするので「蛸林」とかう呼んでゐた、敵が初めての戰林をねた時はこんな所に打ける筈のものかと思つた、然し戰闘を重ねるに從ひだん〳〵自信がついて來た、蛸林の中に上陸作戰を行ふ、と云ふことは敵の裏をかくことであつて、敵に對して最も有利な作戰である、以下各個の戰闘經過を申上げる、兵團長坂口中將閣下「今度の戰闘は敵の裏へ〳〵と廻つて敵の後方から攻めて行つて呉れ」と云ふ命令を受けた、これで三個大隊が三個の上陸地點に出發する時はこのマングローブのある所を選んで行つてよいといふことになつた、〇月〇〇日ラオモアでダバオ攻略の大命を受け〇〇日パラオ出發途中出て來た敵艦隊にメダン機の爆撃を受けたりしたが二十日にはダバオに上陸した、これより先き

ダバオでは宣戰布告と

同時にやすでに二個中隊ばかりが居なかつたとリリッピン軍が發表されて三千名にものたといふ話が入つてゐた、そこで我々は敵機關銃の裏のやうな所は日本軍がタロ湾に上陸するだらうと思つて居るだらうと思つて主力はその方から上陸し一部は南から上陸して、さうして敵北から敵機關銃を叩くといふ計劃であつた、さて敵の配置は、あらかダバオの南からの上陸にはメダン機の爆撃、此間には古田部隊と吉岡部隊の護衛があるがそれを除うないその中間から行くといふことにしてゐた前三時上陸した、主力の一個大隊は南の方向に前進をつづけた、金兵の抵抗する一部の部隊に對し一個小隊を殘してこの方面から敵の退路を斷絶し、殲滅し、殘りの部隊は一擧にダバオに突進した、敵の機關銃が打ちまくつてゐるが、我々は敵機關銃の裏へ〳〵と廻つて行つたので敵は我々の姿を見ると逃げ出した、我々は敵の機關銃陣地を占領した、敵は我々の後方から攻めて來るとは夢にも思はなかつたといふ事である、

北部蕃情安定の基

李崠山〝激戰記〟世に出る

新竹州理蕃課で記念碑建立を計畫

【新竹州電話】昭和十年秋霧社事件の際に於ける李崠山上の激戰に際し殉職した故警部補外十名の英靈を弔ふ為め新竹州理蕃課では今回同山麓に大理石の記念碑を建立したが同碑除幕式は二十九日午前十時から同山麓に於て行ふ

【新竹